

📌 今月のポイント

安易なUターンは重大事故のもと！

～Uターンの事故パターンと防止策～

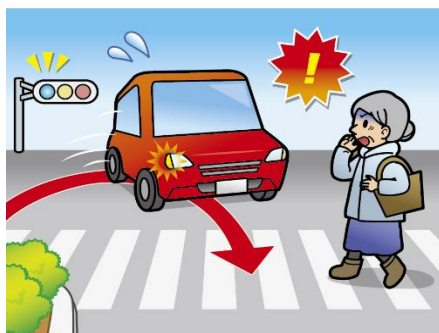


運転中、目的の場所をうっかり通り過ぎてしまうことがあります。このようなとき、Uターンをしてすぐに引き返したくなるものです。Uターンは交差点で多くみられますが、近くに交差点がない場合などは、中央分離帯の切れ目でUターンするケースもみられます。いずれの場合についても、安易なUターンは歩行者や対向車などと衝突するおそれのある危険な行為です。そこで今回は、Uターンの事故パターンと防止のためのポイントをまとめてみました。

Uターンの事故パターン

◆ 交差点での歩行者等との事故

交差点でUターンしようとするとき、ドライバーは対向車に注意が集中しがちです。そのため対向車に切れ目ができたとき一気にUターンすると、横断歩行者や自転車に気づくのが遅れて衝突する危険があります。



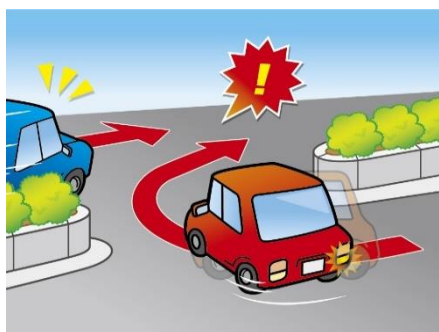
◆ 右折矢印交差点での対向車との事故

右折矢印信号のある交差点の場合、右折信号矢印が表示されると同時にUターンを開始すると、信号の変わり目で交差点に進入してきた車(特に二輪車は急停止すると転倒のおそれがあるので、強引に進入してくることがあります)と衝突する危険があります。



◆ 中央分離帯Uターン時の対向車との事故

植え込みなどで対向車線が見えない中央分離帯がある道路で、切れ目を使って一気にUターンしようすると、自車のUターンを予測していない対向車が減速せずに走行してきて衝突する危険があります。



安全運転アドバイス

◆ 対向車だけでなく歩行者等にも注意

交差点でUターンするときは、必ず「転回禁止」の交差点でないかどうかを確認する必要があります。転回禁止でない交差点でUターンするときは、対向車だけでなく横断歩行者等にも十分注意するとともに、横断歩道の手前で停止できるよう徐行して進行しましょう。

◆ 右折矢印交差点では対向車に注意

右折矢印信号に変わっても、交差点に進入してくる対向車はいますから、必ずUターンする前に対向車の有無をチェックしましょう。特に車体の小さい二輪車は見落としやすいので十分注意しましょう。なお、右折矢印信号の交差点でも、転回が禁止されている場合がありますから、よく確認しましょう。

◆ 中央分離帯でのUターンは避ける

中央分離帯の切れ目を使ってUターンをすることは非常に危険ですから、中央分離帯でのUターンはできるだけ避けましょう。やむを得ずUターンする場合は、転回禁止でないことを確認したうえで、対向車の有無をチェックし、対向車があるときは通過を待ってからUターンしましょう。

【ご参考】弊社のご支援メニュー

<自動車事故防止>

1. 安全運転セミナー（Web版もあります）
2. ペーパー式適性検査（KM式・DOCCS）
3. 適性診断（e-診断）
4. 自動車事故防止のビデオ・DVDの視聴

<ニュース・チラシの提供>

1. 安全運転のポイント（毎月定例発行の具体的なニュース）
2. 社内講習会用冊子（ザ・メッセージ等）